

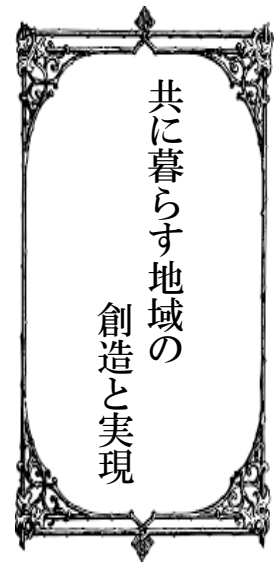


### Line Up

- ・共に暮らす地域の創造と実現
- ・新理事ごあいさつ
- ・「日野春學舎構想」3年間の成果と課題
- ・「障害者の芸術活動支援モデル事業」の今年度の成果について  
その他

20

平成29年（2017）  
3月発行 20号



## 共に暮らす地域の 創造と実現

理事長 坂本 ちづ子

ご自分の作品の前に立つて、創作過程や思いを誇らし気に語る県内作家の皆さん、総勢17名。滋賀、鹿児島を始め国内外で優れた評価を得た作家の皆さんの作品も並び、更に、女子美術大学の皆様も応援して下さいました。「葦崎ニコリ地下」会場正面に立つと、思わず「オーっ！」と、第一声は感嘆の声となりました。

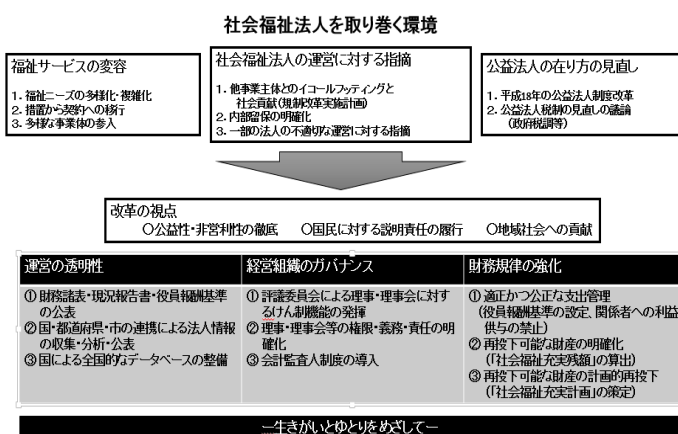
平成29年、酉年の始まりは、「山梨アールブリュット合同企画展」呼吸をするように生まれたものたちからです。既に、スポーツで可能性にチャレンジするスペシャルオリンピックス日本・山梨音楽や舞踊でその力を発揮されているアート・フェスタの皆さん。個人のボーカリスト、アーティストと、内外で活動

されている方々は、枚挙にいとまがありません。この度、障害のある人達の芸術活動を支えるモデル事業が加わりました。個人でも団体でも、県内外・国内外を問わず、どなたでも参加可能。支援を始めとする関係者の皆さんも、オープン参加。その名杯を「山梨アール・ブリュットネットワークセンター」Y A N（ヤン）とし、日野春學舎に拠点を設けました。

入所施設を開設した平成5年前後、支援学校卒業後は、働いてお金を得る・通所施設に通う・入所施設の利用と、障害の重さに応じた、この3つくらいしかない時代でした。少々つらくとも、ご本人に合っていないなくても、家族も先生も必死で就職先を探しました。生産性に価値観の置かれていた時代です。あれから23年。長崎の瑞宝太鼓の皆さんをお呼びした時、プロの演奏者集団となられ世界中を歩き、太鼓演奏から給料を得ていることを聞き「あたりまえ！」って、こういう事なんだ。と言う説得力のある姿に衝撃

を受け、自らの発想の貧弱さに発憤もいたしました。それやこれやの日々、一人ひとりの命の輝きを引き出す追求と専門性、継続力が、今日の芸術活動にある事を肝に銘じ、今後は、組織的に取り組んでいけるという事で、感謝いたします。さて、後半は年度をはさんだ事業のお話。

### その「 「社会福祉法人制度改革」準備状況



公益財団法人 日本知的障害者福祉協会 2016 8/22 資料より

60 年以上続いた「社会福祉法」は、社会情勢に合わず、不備・不具合の上に、不正な行為をする法人も中にはありました。よって改革を図り、目的を達成することが主旨です。法人では定款例に沿って、定款変更、諸規定等の準備を行い、

4 月からの施行に備えております。定款例に沿って作成された定款ですから、日本中、大半は、同じ定款が出てくるでしょう。大事なことは、この内容を、どのように作っていくかにかかっています。さつそく、監事さんからの提起で、法人全体の事業種が多機にわたるので、各現場に足を運び、見る（視る）・利用者、職員の声を聴く（聞く）。を実施しては・・・ということ、さつそく始めていきます。

## その二

### 重度・高齢者のグループホーム「太陽」並びに生活介護等の建設進捗状況

検討会議が始まってから、かれこれ 7 年が過ぎ、ようやく目途が立ちました。  
・計画図面を北杜市へ提出 3 月 10 日

・農地転用手続き 4 月中旬  
平行して、入退所検討委員会では内外からのニーズ収集と全体調整をしております。

## その三

### 生活支援センター陽だまり「葦崎事業所」開設進捗状況

老朽化しているグループホームの吸収・合併を機に、グループホームをメインに短期入所、シェルター・訪問介護の従たる事業、相談等、多様なニーズの対応ができる多機能型事業所を葦崎市中央島町に 5 月には開設すべく、改修工事が始まりました。

## その四

### のはら楽団 就労継続 A 型進捗状況

春の陽、菜の花、のはら楽団、グループホームへの安定した食事の提供を目指して食材会社と連携しながら、4 月スタートの準備が始まっております。  
大きな物を挙げてみましたが、これら

は利用されている方々の声が反映され、今日となり形になってきた事業であります。今、八ヶ岳名水会は、どのような立ち位置におり、何をせねばならないのか、じっくり足元をみながら歩む年でもあるかと思っています。

まもなく、真原に清春に、日野春學舎の校庭にと、八ヶ岳南麓が桜で染まります。

2025 年、あなたは何才になりますか。2040 年には・・・その時、どのように暮らしているでしょう。地域はどうなっているでしょう。人口は・・・？ 地域と共にと申しながら、地域のことを知らないことに啞然といえます。日本最古、山高の神代桜は二千年とも。

「知って」未来を作れる年にもしていきましよう。

## 八ヶ岳名水会

### 新理事 ご挨拶

#### 「新しい10年に向けて」

社会福祉法人 八ヶ岳名水会

新理事 小泉 晃彦

私が名水会にお世話になってから、早20年を過ぎようとしています。この間にも地域移行や様々な地域展開等沢山の事をここで体験し学びました。また、この7月より理事として就任する事となり、スケールの大きさに戸惑いながらも新たな10年が始まったと実感しています。この新たな10年はまた新たな夢や課題への模索とチャレンジとなります。近年始まった日野春學舎構想や農福連携を始めとする地域共生の取り組み、長年の懸案だった星の里の定員減や高齢化への取り組み、全国の仲間との芸術支援の展開等多岐に渡ります。名水会の取り組みの数々は、

どちらかといえば理想と可能性の追求で、それは移り行くニーズと地域と共にあります。迷う時はその声を聴いてみてください。試行錯誤の先に僅かに見え隠れしています。どうか変わることを恐れず、歩みを止める事なく、知恵や想いを寄せ合い仲間を信じて新しい10年に向けて一緒に取り組んでいくと思います。どうか宜しくお願ひいたします。

#### 「新理事就任にあたり」

社会福祉法人 八ヶ岳名水会

新理事 中嶋 浩

昨年の7月理事会において理事の任に就くことになりました。平成5年の入職以来、現場で利用者とともに過ごしてきました。振り返れば、さまざまな出来事があり、そのたびに私自身を成長させていただいていると感謝しております。

このたびの理事就任にあたり、今後の名水会にとって私自身が何をすべき

で、何を求められているのかを思うに、やはり利用者にとって必要とされることを、ブレることなく追い求めることだと改めて強く感じております。この仕事の原点は現場です。現場第一主義を貫いていきます。

また同時に、ここまで拡がりを見せてきた名水会の事業展開において、一つ一つの検証を丁寧に行い、これから利用者・現場・地域から法人として必要とされる新たな取り組みについても皆で考えることができる体制を作ることと、微力ながら支えていきたいと思っています。

理事職は私にとって過分な大役であると心得ています。利用者をはじめとする皆さんにとって、果たして満足のいく役割がこなせていけるのか甚だ不安ではありますが、今後も常に皆さんと一緒に歩んでいくことができればと思っています。

よろしくお願ひ致します。  
ガンバロー！八ヶ岳名水会



## 『日野春學舎構想』

### 3年間の成果と課題

企画事業部 窪川 敦之

平成26年、私たち八ヶ岳名水会が『地域の課題を「農」と「食」と「美」で改善するブリッジスクール構想』と銘打って日本財団に助成を申請し、採択していただき、早くも3年が経過しました。この構想で取り組んできたのは、「少子高齢化」や「産業の流出」等、今や日本のどここの地方でも抱えている深刻化する課題や、「ひきこもり」、「発達障害」または「触法」といった、制度の狭間にあつて取り残されがちな方たちに対する支援という課題でした。お世話になった地元のために何かしなければという思いで、スタートしましたが、これまで法人が取り組んできた福祉的なアプローチではとても解決できない問題を数多く含んでおり、手探りで模索してきた3年間でした。この問題の解決には、まさに「革新的な解決法」が必要なのです。

『日野春學舎構想』は、「農業部門」と「ブリッジスクール部門」、さらに「アート企画部門」を活動の3本の柱としています。当法人がこれまで24年間に培ってきた“強み”を活かした活動です。振り返ると、日本財団や福祉医療機構、そして厚生労働省の「障害者の芸術活動支援モデル事業」と様々な助成をいただくことで弾みがつき、さらに各方面の専門の方にご協力いただくことで様々な活動に取り組め、幅広く事業展開することができました（表1：部門別年度別の主な取組内容及び成果）参照）。

「農業部門」では、「生産性及び収益性の向上と中間的就労の創出・地域との連携」を目標に取り組んできました。成果としては、収益の柱となるニンジンやミニトマト、玉ねぎ、米といった作物の選定と効率的な生産方法が確立し、収益性の向上が図られました。

3年目となる今年度は、更なる販売力の向上を目指して「つちのね」ブラ

ンドを立ち上げ、「里くら」にも参加しているデザイナー篠鉄平氏に委託してオリジナルのラベルデザインを作成しました。

表1 「日野春學舎構想」  
部門別年度別の主な取組内容及び成果

|            | 平成26年度                                                                                                                                        | 平成27年度                                                                                                                                     | 平成28年度                                                                                                                                                                         |
|------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 農業部門       | <ul style="list-style-type: none"> <li>＜日本財団助成＞</li> <li>・作物の試作・選定</li> <li>・中間的雇用へ向けての取組み「案一」「米心亭」開始</li> <li>・販路の拡大に向けた首都圏への訪問販売</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>＜日本財団助成＞</li> <li>・生産品目（ニンニク、トマト、小麦、ニンジン、米）等の選定と労働量の精査</li> <li>・販路の確立（給食センター等）</li> </ul>          | <ul style="list-style-type: none"> <li>＜日本財団助成＞</li> <li>・選定作物の品質の向上</li> <li>・商品のブランディング（名称選定及び製品ラベル作成）</li> <li>・ジュース加工施設の整備</li> </ul>                                      |
| ブリッジスクール部門 | <ul style="list-style-type: none"> <li>＜日本財団助成＞</li> <li>・準備委員会組織</li> <li>・ブレ開講</li> </ul>                                                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>＜日本財団助成＞</li> <li>・年間シラバス実施（受講生7名修了）</li> </ul>                                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>＜日本財団助成＞</li> <li>・トライコース年間シラバス実施（受講生9名修了見込み）</li> <li>・つどいコース開設</li> <li>・チャレンジワーク実施</li> <li>・ブリッジラボ開始</li> </ul>                     |
| アート企画部門    | <ul style="list-style-type: none"> <li>＜日本財団助成＞</li> <li>・「つなぐたゆたうアート展」の開催</li> <li>・講師によるワークショップ実施</li> </ul>                                | <ul style="list-style-type: none"> <li>＜福祉医療機構助成＞</li> <li>・アトリエの開設・運営</li> <li>・まめ展の開催</li> <li>・音楽祭の開催</li> <li>・収入につながる仕組み研究</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>＜障害者の芸術活動支援モデル事業＞</li> <li>・YANの開設</li> <li>・人材育成のための研修の実施</li> <li>・山梨県との連携（障害者芸術・文化祭等への協力）</li> <li>・「山梨アール・プリュット合同企画展」の開催</li> </ul> |

さらに、外部委託していたジュースやパスタソース等の加工を自前でできるようにと日本財団の助成金で機材を購入し、加工工場を整備することができました。

「ブリッジスクール部門」では、まず就労を目指す方達を対象とした取り組みで、1年目の準備期間とプレ開講を経て、2年目には7名の受講生が修了し、3年目である本年度は「トライコース」と命名して講座を開設し、9名の受講生を送り出すことができました。彼らは一様に、これまでの社会経験から自己評価が低く、当初は不安から受講に積極的でない方もいました。しかし、働くことの意味や心構えをはじめ、金銭管理や人間関係といった日常的に直面する解決が難しかった課題について、講義や話し合いを通して、同様の悩みを抱える仲間と学び直しができ、自分の可能性を信じて新たな一歩を踏み出そうとする変化が見られました。一方、「トライコース」の受講をきつ

けに、新たな課題に気付いて個別の相談プログラム（「ブリッジラボ」）に参加して自分を見つめ直し、自己決定によつて新たな方向へ歩き出した受講生もおり、これも成果の一つといえます。

また、今年度は、「ひきこもり」等、社会参加に課題を持つ方むけの「つどいコース」を新たに開設しました。受講生の希望を取り入れて、おやつ作りやゲーム、DVD鑑賞、ドライブなどを行いながら個々の話を引き出し、心地よい居場所作りを心がけました。最初はスタッフになじめず心を閉ざしがちだった方達が次第に心を開き、5名の方が安定的に通えるようになり、利用日を心待ちにするまでに変化してきたことは、確かな成果であったといえます。

さらに、夏休み冬休み等の長期休業中に中高生向けの職業体験「チャレンジワーク」も実施しました。発達障害的な傾向や学力不振等により、学校で居づらさを感じたり、将来に不安を抱

えている子ども達に、パン作りやお菓子作り、また農作業体験等を通して成功体験を重ね「働く」ことで社会へ出て行くための自信につなげる取り組みが出来ました。

※「アート企画部門」についての詳細は次項「平成28年度 厚生労働省『障害者の芸術活動支援モデル事業』の成果と課題」に譲ります。

どの部門も、この3年間に、当初の想定を大きく超えた多様で幅広い展開が待っていました。ベースは、これまで取り組んできた“強み”を活かした活動ですが、このような展開は、皆様のお力添えがなければ到底実現しませんでした。開かれた可能性とともに次に取り組むべき新たな課題が見出された3年間でもありました。その意味で、私どもの取り組みは未だ道の途上にあります。八ヶ岳名水会版「ソーシャルイノベーション」実現のため、これからも引き続きご支援ご協力の程、宜しくお願い申し上げます。

## 厚生労働省「障害者の芸術活動支援

### モデル事業」の成果について

企画事業部 窪川 敦之

「アール・ブリュットには人と人をつなぐ力、個が持っている可能性や人が生きる美しさや尊厳を伝える力がある」。これは今年度、厚生労働省「障害者の芸術活動支援モデル事業」（以下「モデル事業」という）に山梨の協力委員として加わっていただいた小林瑞恵氏（社会福祉法人愛成会・東京都）からいただいた文書の一節です。この一年は、まさしくこの言葉の意味を実感した年でした。

この「モデル事業」には、前出の愛成会を始めとして、連携事務局である滋賀の社会福祉法人グローを中心とした全国10団体が取り組み、それぞれに魅力的な活動を展開しています。当法人は今年度、この内の一団体として採択されたのです。

振り返ってみますと、この「モデル事業」の採択を受けたのは確かに八ヶ

岳名水会ですが、当法人だけでは到底このように豊かな成果は得られなかったであろうと思います。県内においては、福祉関係者だけでなく、教育、医療、法律、行政といった各分野の一線で活躍されている方々に協力委員として加わっていただき、多彩な分野との連携が生まれました。例えば、著作権に詳しい弁護士の齋藤祐次郎氏にご協力をいただいた「著作権と商品開発を学ぶ」では、普段馴染みのない法律絡みの問題について分かり易くご講義いただき、大変興味深い研修となりました。

また、県外においては採択された他の団体と連携することで、貴重なノウハウをご教示いただくとともに、世界的評価を得ているようなアール・ブリュット作品の借用が実現するなど、その成果には枚挙に暇がありません。それらの成果の集大成といえるのが、今年1月12日から韮崎のニコリで開催した「山梨アール・ブリュット合同

企画展」でした。開会式では、韮崎、北杜の両市長をはじめ、「モデル事業」を推進している元スウェーデン特命全権大使の渡邊芳樹氏もお越しいただくなど、多くの方達からのご協力が得られました。

会場では、モデル事業によるネットワークづくりの成果として見いだされた県内在住の作家16名の展示とともに、すでに国内外で高い評価を得ている県外作家6名＋海外作家（女子美術大学コレクション）を、展示することができました。その結果、アンケートによると96%の方が「非常に良かった」もしくは「良かった」と回答し、さらに、アール・ブリュット作品の芸術性の高さに感銘を受けたという声や、私たちの活動を応援して下さる声を多数いただくことができました。

私たちは、ご協力いただいた方々とこの成果に感謝しつつ、表現し続ける彼らのためにさらに活動を展開していかなければならないと感じています。

## 五施設共催職員合同研修会 「援助者を援助する」

キッズクラブひまわり 高橋 昌也

今年で8回目となる5施設共催職員合同研修会は三富福祉会・富士聖ヨハネ学園・園樹会・友好福祉会・八ヶ岳名水会の県内5法人で毎年1回行っている研修会です。目的を「利用者の人権擁護と虐待の防止」とし、今年度は当法人が中心となり企画と運営を行いました。各法人から数名ずつ実行委員を選出し、全体で12名の実行委員がより良い研修を行うために意見を出し合い計画してまいりました。

打合せを通じ「職員のメンタルヘルス」に焦点を当てることとなりました。福祉職に就く人としてこの仕事の尊さと自身のモチベーションを維持する方法を学ぶことが、結果として利用者の権利擁護と虐待の防止に結び付くのではないかと考えたからです。また、私

も周りの仲間も実際に福祉現場において気持ちの面で悩むことがあり、切実な内容でした。

講師は山梨県立大学人間福祉学部福祉コミュニケーション学科の山中達也先生に依頼しました。先生は精神保健相談センター・リハビリテーション医療センター・精神保健福祉センター・中央児童相談所を経て、ソーシャルワークオフイスこころみを開設された後に県立大学の准教授に就かれました。先生の研究テーマは「心の健康・援助とは何か・援助者への援助・セルフケア」等でしたので、是非とも講演をお願いしたいと実行委員会では話がまとまり、準備は進み研修当日を迎えました。

蓋を開けてみると受講生は100名を超え、福祉職に携わる者に関心の高い内容であったと改めて感じました。先生のお話ご自身が苦しんだ体験談を通じて、現場で悩んでいる私たちの心が共感し実りの多い時間となりました。レジュメの冒頭に『対人援助専門職者

としての「私」と「仲間」と、その先の存在を大切にするために』と記され、①仕事に対し悩んでいる「私」を認めることから始まり、②「援助」や「苦しみ」を気持ちだけの問題ではなく可視化し、③私や仲間を大切にするために「聴き」、「はなす」ことの意味を学びました。全体を通し「寄り添う」とことが「向き合う」とことと気付き、受講生に自信と希望を与えていただきました。今回は研修後に懇親会を開催しました。普段は交流する機会が少ない他法人の現場の職員同士に小さな繋がりが出来たのではないかと期待しております。

最後になりますが、快く講師を引き受けてくださった山中先生、お忙しい中お集まりくださった受講生の方々、現場に残り支援をしていた職員の皆様、そして普段の仕事の傍ら企画運営を行った実行委員に感謝し締めさせていただきます。本当にありがとうございます。



## 罪を犯した高齢者・障害者の 地域支援実務者研修を終えて



昨年十一月二十五日に甲府市の「かい  
てらす」において山梨県地域生活定着支  
援センター主催の研修会を行いました。

地域生活定着支援センターは全国の  
都道府県に一カ所（北海道のみ二カ所）  
設置され、矯正施設に収容されている身  
寄りが無く帰る場所のない、高齢者や障  
害者（疑いも含む）に施設を出たあとと速  
やかに福祉の支援を受けられるように  
保護観察所、矯正施設と協働して環境調  
整を行うことを主な目的としています。  
山梨県では平成二十三年十一月に設置  
され現在までに七十一名の高齢者・障害  
者を支援してきました。

その他の業務として一般からの相談  
も受けつけており、様々な方面からの相  
談を百件以上受けつけてきました。最近  
では検察庁や弁護士会からの相談も増

えているため一般相談はさらに増える  
傾向にあります。

支援対象者はそれぞれ多様な課題を  
抱えておりそれを解決するには多方面  
の専門家や行政機関等に協力してもら  
うことが不可欠です。そのため研修会を  
毎年主催し地域生活定着促進事業の役  
割等を広く知ってもらうための講演や、  
実践的な事例検討会を行ってきました。  
そのような中で我々福祉関係者は司法  
分野に携わる方々の取り組みについて  
あまり理解していないという事が浮き  
彫りになってきたので今回は甲府地方  
検察庁より「刑事政策推進班の設置に伴  
う福祉関係機関との連携」甲府刑務所よ  
り「刑務所内における受刑者の出所に向  
けた取り組み」山梨県弁護士会より「高  
齢・障害者の権利擁護と福祉機関との連  
携」というテーマで講演をしていただく  
ことになりました。普段接することのな  
い専門的な内容で専門用語が多くある  
にも関わらず、解りやすく丁寧に教えて  
いただきました。

司法関係者は高齢者や障害者が本来  
受けられるはずの福祉支援を様々な理  
由で受けることができず、一人でもうす  
ることも出来なくなり犯罪に至ってし  
まっている事を痛感しており、社会福祉  
との連携を強く意識しています。我々福  
祉側も制度の網からこぼれ落ちること  
で刑務所という過酷な環境に追い込ま  
れてしまった高齢者や障害者が大勢い  
ることを実感し、すべての高齢者や障害  
者が当たり前の福祉サービスを利用で  
きるように努めていくことが大事であ  
ると再認識させてもらえる研修でした。

### 山梨県地域定着支援センター

穴山 裕志



## 春の陽・のはら全体旅行について

のはら楽団 浅利 美衣

十二月一日・二日に、春の陽・のはら合同の全体旅行を実施いたしました。今回の旅行の参加者は、利用者四十二名、職員二十名の計六十二名と、前年度を二十名ほど上回る結果となりました。

今年度の行先は、千葉。一日目は、勝浦おさかな市場とマザー牧場で買い物、二日目は、鴨川シーワールドと市原ぞうの国見学でした。朝早くの出発でしたが、集合場所やバスの中で見た利用者さんの顔は、とても晴れ晴れとしていて、この旅行を楽しみにしていた様子が伺えました。バスの中では、恒例の(?)カラオケ大会が開催されました。みなさん自慢の歌声を披露してくださり、職員、利用者共に楽しむことができました。ポピュラーな曲だと、マイクを持っていない人も歌

ったり、バスの中が一体感に包まれました。途中、海ほたるサービスエリアで休憩を取りました。短い時間でしたが、いつの間にか食べ物を手に行っている方がいたり、みなさんの行動力には驚かされるばかりでした。

カラオケ大会を続行しながらも、最初の目的地、マザー牧場へ到着しました。ここでの目的は、昼食。ハンバーガーランチをいただきました。牧場ならではの牛乳もついており、その味を楽しみました。1階には、デザート屋さんの屋台があり、お昼ご飯を食べた直後にも関わらず、多くの利用者さんが並び、デザートも楽しんでいました。デザートは別腹と言いますが、その食欲には驚きまし



た。(途中のサービスエリアでも食べていたのに...)ですが、みなさん満足されていたのでよかったと思います。マザー牧場を出発し、次の目的地は勝浦おさかな市場。ここでは、自分や家族、グループホームの方々など、自由にお土産を購入していました。1日目ということで、生ものは購入できませんでしたが、乾物や千葉名産のピーナッツのお菓子など、様々なものを買うことができました。そのあとは、宿泊先のホテル三日月へ。とても立派なホテルでした。夕食の前に、お風呂タイム。みんなで入る大浴場は、とても気持ち良かったです。ゆっくりと温泉で温まり、宴会場に集まり夕ご飯。とても豪華な食事が待っていました。美味しいご飯を食べながら、カラオケ大会のスタートです。バスでは、春の陽との別々でしたがここでは合同なので、更にとくさんの歌声を聴くことができました。利用者さんと職員の奇跡のデュエット、春の陽とのはらの垣根を超

えたデュエットなど、貴重なかわりがたくさん見られました。想像以上の盛り上がりで終わった夕ご飯。みなさんとても満足そうな顔をしていました。その後は、各自部屋へ戻り就寝準備や温泉、二次会などで夜を過ごしました。

二日目の朝。バスに集合すると、「〇〇のせいで寝れなかった」「夜うるさかった」などの不満が爆発していましたが、表情は晴れやかで、楽しい夜を過ごせたことがわかりました。

まず最初の行先は鴨川シーワールド。初めての方も多くいたようで、とても楽しみにされていました。時間の関係でイルカやシ

ヤチのショーを見ることはできませんでしたが、ベルーガ（白イルカ）のショーは見ることができました。ベルー



ガの可愛い姿や、不思議な生態など、存分に楽しむことができました。お土産も購入し、みなさん満足そうな顔をされていました。

次の目的地は市原ぞうの国。海の次は陸の動物と、動物尽くしの一日です。駐車場から入場口までは急な坂道になっていましたが、あつという間に登り切り、園内へと入っていきました。まずは昼食ということ、バスの中で配られたメニュー表を基に、好きな食事を選んでいました。カレーをはじめ、うどんやパスタなど、たくさん種類がありました。お昼に時間を取られてしまい、見学の時間がない…と思いきや、ほとんどの方が見学をされていました。中には、ゾウのえさやり体験をしている方もいました。短い時間でしたが、それぞれ楽しめていました。楽しい時間はあっという間、帰る時間となつてしまいました。帰りのバスでは、ゆつたりとビデオを観ながら帰りました。ハードスケジュールだった

ためか、爆睡している方が大勢いました。途中のサービスエリアでは、千葉の最後の思い出としておやつ等を購入していました。葦崎合庁、小学校、星の里でそれぞれ降車し、無事に帰宅されました。

旅行といえば、ハプニングはつきもの。時間に追われる場面も多々あり、利用者、職員共に慌ただしく過ぎてしまったような気もしますが、いつもと違う場所、環境、メンバーで過ごした二日間は、いいリフレッシュになったのではないでしょう。春の陽、のほろが一体となつて楽しみ、協力し合えるこのイベントは、職員、利用者の親睦を深めるといふ意味でも大切なものではないか、と感じました。来年度の行先はどこか、利用者さんのどんな顔がみられるのか、今から楽しみで

## わたしたちの音楽活動

菜の花 千野 加織

誇れるものつてありますか？

わたしたち菜の花には誇れるものがたくさんあります。今回はたくさんある中の一つ、音楽活動を紹介します。

### 音楽活動「リトミック」

菜の花では毎週火曜日、アフリカ太鼓も含め音楽活動を行っています。まずはラジオ体操から始まり、身体をあたため、気持ちも高めています。表現の仕方も自由。手にする楽器も自由。音楽のジャンルも自由。みんなで踊ったり手をつないだり。一人一人の表情が輝き眩しいくらいに思う活動です。ある日のリトミック中、思い出の曲に涙する利用者さんを目にしました。

見ていて胸がキュツとなりました。音楽のチカラをかりて秘めた思いの表出。誰にでも心が気持ちいいなっってしまう、そんな瞬間であると思います。その気持ちに隣できちんと寄り添うスタッフがいて、ただただ共感する。この光景を目にした時、わたしたちのいる意味を改めて感じるようになりました。

また、ある日のリトミック中、輪の中心に誘うと恥ずかしがりながらも嬉しそうな表情で主役になる利用者さんがいました。いつもは引つ込み思案の方が、照れながらも笑顔でいっぱいになる。さてはみんな、主役になるのをまだかまだかと待っているな。そんな思いを汲み取ってタイミングよく一人一人に声をかけていく。嬉しさ、楽しさで満ち溢れた瞬間です。

初めの頃、なかなか良い雰囲気を作り出すことができませんでした。反省反省の活動でしたが、キッズクラブの宮崎さんのリトミックを参考に、ご指

導頂きながらわたしたちらしい活動に成長させてきました。知っている曲を口ずさむ。大きな声で歌う。踊る。奏でる。笑顔と楽しい気持ちでいっぱいになる。そんな雰囲気作りをわたしたちはいつも心がけています。

昨年から菜の花には、若い世代の力がキラキラと輝いています。今まで学んできた知識を発揮しようとして努力したむきに頑張っています。二十代前半〜七十年代前半と幅広い年齢層のスタッフが一丸となり、互いに意見を出し合い高め合いながら切磋琢磨。菜の花のコンセプトでもある「明日もまた来たい」と思ってもらえるような音楽活動の時間を、菜の花スタッフ一丸となりこれからも繰り広げ、誇れるものをさらに磨いていきたいと思っています。





## 第1回 星の里アート展

### わたしのおてがみ

平成28年11月17日から19日の3日間、北杜市長坂町のきららショッピングセンター内にあるきららシティホールにて、星の里アート展「わたしのおてがみ」を開催しました。

現在、星の里では毎週木曜日の午後、ほんの1時間程度の時間ですが、アート活動の時間を設けています。その時々設定されたテーマをもとに、参加する利用者各々が文字をつづったり、絵を描いたりと思い思いに活動しています。

これまで星の里では、アート活動でできた作品を外部の方々に発表する場がほとんどなく、活動の最後に利用者同士で見せ合ったり、施設内で展示したりするのみでした。時折、同法人の別事業所主催で行われるイベントの会

場に、星の里の利用者の作品を展示していたこともありましたが、一部の利用者に留まっていました。

今回、星の里主催でアート展を開催するに至ったのは、活動内で生み出された多くの作品が、綺麗に保管され数を増やしていくだけで日の目を見ないことを非常に残念に感じたためです。また、外部の会場に飾り、自分たちが生み出した作品が綺麗に飾られている場面を利用者に見ていただくことで、毎週のアート活動への張り合いとなるようにとの思いも含まれました。

3日間のアート展には200名を超える方々が来場され、作品を生み出した利用者も、自分の作品が飾られ、それを見に来てくれる人々を目にすることができました。

今回行われたアート展では、現在星の里にいる利用者全員の作品を展示することはできませんでした。それには、現在のアート活動の時間が限定されていることや利用者の中には何をし

て良いかわからず、参加を躊躇していることがあります。もちろん、日中活動や余暇の過ごし方は利用者の選択によるものですが、少しでもその選択肢が増え、表現の方法を増やせるように、そして、次回アート展にはより多くの利用者が自らの表現を称賛される場を増やせるよう、工夫を重ねています。

星の里 遠山 萌





寄附・寄贈・助成金のご報告！  
ありがとうございます。

## 赤い羽根共同募金

◎星の里では、薪作業で使用する薪割り機・薪ラック・一輪車を購入致しました。



◎春の陽では、農作業で使用する管理機・トラクター用マルチャーを購入致しました。



◎のはら楽団では、8人用ロッカー・冷凍ストッカー・キユッパ（卵パック用超音波ホツチキス）を購入致しました。



社会福祉法人

松の花基金

星の里の活動場所で使用するテーブルと椅子を購入するための助成金をいただきました。



一般社団法人

生命保険協会山梨県協会

車いすに乗ったまま測定できる体重計を寄贈していただきました。



当法人の活動は、地域の方々を始めとして、多くの方々のご厚意や善意によって成り立っています。

今回、助成・寄贈していただいた品々につきましては、利用者の活動や生活をより豊かで充実したものとするために活用させていただきます。

八ヶ岳名水会では、今後も、利用者の皆様それぞれの個性や特性に合わせた活動を実現するため、あるいは、多様化する利用者のニーズに対応していくため、必要な道具をそろえて、環境を整えていきたいと考えています。

皆様の身近で眠っている物品などございましたら、ご連絡いただければと思います。何とぞ、よろしく願います。



ありがとうございました！

○ 題字を書いてくださった方

法人監事・手塚邦彦様の奥さま

手塚 寿美様

○ 表紙の写真をくださった方

YAN展示会 瀧澤 聡 様

素敵な字と写真をありがとうございました！

### 名水会パンフレットがリニューアル

新年度スタートに際し、パンフレットがリニューアルしました。

「地域という大きな家族」をテーマに地域に生きるすべての人々が、大きな家族のように支えあい、日々を生活できたらと希望を込めたパンフレットとなっております。ぜひ一度、ご覧になってみてください。

企画事業部 谷戸 道彰



▲「新パンフレット」の表紙。  
題字と八ヶ岳の写真を  
大胆に配し、力強いイメージ  
にリニューアル。

## 編集後記

東日本大震災で被災した福島の子供たちが、転校先の学校で「ばい菌」扱いされたり「いじめ」を受けているというなんとも切ないニュースを耳にする。その度に「教育」とはなにかと自問自答してしまふ日々だ。

そんな中、「みのあか峡東支部」で作成したカルタの記事が目に入ってきた。その名も「支援者さんに伝えたいことカルタ」障害をもった人たちが、日常感じている不安や抱えている悩みを広く知ってほしいと企画したそう。作成に携わったメンバーの話では、「怒られてしまふなどと考え、必要なことを頼めなかったり、意見を言えなかったりと我慢してしまふ傾向にある」とコメントしている。支援者側の立場から聞くと、心当たりはないだろうか？中には『普通できるでしょ』で片づけられないほしい「ルールを支援者さんだけで作らないでください」など障害者の思いが記されているものもある。今、私たちに求められている「意思決定支援」。是非、ご本人さんの希望に沿う最善の支援を心がけていきたいと改めて強く決意した。更に、意思決定につながる支援を一步でも進めていくことを、決して諦めてはいけないんだと思う。

錦

## 社会福祉法人 八ヶ岳名水会

〒408-0031 山梨県北杜市長坂町小荒間 1095-7

電話 0551-32-7355

FAX 0551-32-7350

Eメール hoshinosato@y-meisui.or.jp

ホームページ <http://www.y-meisui.or.jp/>

### 広報委員会スタッフ

錦見祐治 五味真理奈(陽だまり) 廣瀬政光 穂坂雄太(以上菜の花) 相吉謙輔 遠山 萌  
浅川恵美(以上星の里) 今井勝仁 篠原 充 中仙道涼子 高柳 優(以上春の陽) 森下 博  
浅利美衣 綿鍋潤子(以上のほら楽団) 望月杏沙美(ぽーら) 立川瞳(相談支援)  
谷戸道彰(企画事業部) 法人事務局

